

「NABShow 2018」速報



神谷 直亮

全米放送事業者協会（NAB）が主催した「NABショー」が、4月9日から12日まで、米国ネバダ州のラスベガスコンベンションセンター（LVCC）で開催された。

本稿では、今回の「NABショー」で特に印象に残った4つの出来事と5つの展示フロアの概要をとりあえず速報でお伝えする。

まず、日本のメーカーに勢いが感じられた。会場となったLVCCの北ホールから中央ホールに続く壁面にリーダー電子とJVCの大判ポスターが張り出してあった。また、毎日のように配布される「NABSHOW DAILYNEWS」には、最新鋭の日本製機器

やシステムの記事に加えて、キヤノン、富士フィルム、日立国際電気、NTTグループなどの一面広告が躍った。

次いで、恒例の開幕セレモニーの会場が、ウエストゲート・ホテルのボールルームから、北ホールの西側に設営されたメイン・ステージに変わり、LVCCからホテルまで延々と歩かないですんだ。

また、セレモニーの冒頭に、ローラースケートを履いた男女のデュオが登場して躍動感に満ちたショーを行って雰囲気盛り上げた。ラスベガスを中心に活躍しているシルクドソレイユのスターとのことであった。

さらに、ゴードン・スミス NAB 会長の講演の際に、手話による同時通訳が目についた。筆者の知る限り NAB ショー始まって以来の試みである。スミス会長の講演内容については、次号で紹介するが、終始明るいトーンであった。

4つ目は、中央ホールのロビーで、次世代放送規格 ATSC3.0 の進展状況を示す展示とデモが行われた。ブースの説明員は、「韓国に後れを取ったが4月5日にアリゾナ州フェニックスのテレビ局が先陣を切って商業ベースの放送サービスを始めた」と嬉しそうに語っていた。さらに試験放送が、オレゴン州ポートランド、テキサス州ダラス、



写真1 中央ロビーに「Road to ATSC3.0」のブースが設営され、フェニックスのテレビ局が先陣を切って商業ベースの放送サービスを始めたとの発表が行われた。



写真2 中央ホールに陣取った池上通信機は、4K/8KのPRに余念がなかった。



写真3 朋栄は、最新の8K スーパー低速モーションカメラ「FT-ONE-SS8K」の試作品を紹介して注目を集めた。



写真4 Grass Valley は、南下層ホールの一等地にブースを構えて来場者を迎え入れていた。

ラスベガスなどで継続中という。

「M.E.T. (メディア・エンターテインメント・テクノロジー)」を旗印に掲げたLVCCの展示会場は、従来通り北、中央、南上層、南下層、アウトドアーの5つの会場から構成されていた。

最も人気を得ている中央ホールには、今年もパナソニックのブースからソニーのブースに至るまで日本回廊ができていた。東西に続くこの長い回廊に沿って展示を行ったのは、キヤノン、JVC、日立国際電気、朋栄、ニコン、池上通信機、富士フィルム、リーダー電子などである。さらに、IP化の流れを受けホールの東端に複数のメーカーの対応機器を接続して相互運用を実証する「IP Showcase」が設けられており、ソニーとNECの貢献度が高く評価されていた。将来のハイテク・メディアの開発と推進をテーマにした北ホールの目玉は、「Innovation Pipeline」と「Immersive Storytelling Pavilion」であった。前者のパイプライン・コーナーでは、NHKが8Kを手広くPRし、韓国の地上波放送局KBS、SBS、MBCがATSC3.0に基づく4K放送の実施をアピールした。後者のパビリオンには、Insta360、サムスン、Yiharo、Flir、Voysis VRなど22社が軒

を並べてVR（仮想現実）/AR（拡張現実）のデモを熱心に行っていた。

南上層ホールの入り口に近い一等地には、AVID、エリクソン、ハーモニック、グーグルなどが出展しており、一日中最も賑やかであった。これらのブースに続くやや閑静な居住地めいた会場には、例年通り衛星通信・衛星放送事業者やレポートオペレーターなどが詰めていた。

南下層ホールでは、Grass Valley、Blackmagic Design、Imagine Communications、Ross Video、EVSなどが大きなブースを設営して多種多様な最新放送機器の売込みに余念がなかった。さらに、このホールの中央にはNECがブースを構えて孤軍奮闘しており、最も奥まった場所にはポストプロダクション・キャンパスが設けられていた。

ネバダ特有の太陽がぎらぎらと照りつけるアウトドアー展示会場には、大型トレーラーをベースにした2K/4K中継車、車載局、可搬局、VSAT（超小型衛星通信端末）が並んでいた。来場者を快適に向かい入れるためにテントを張り、冷たい水を用意しているブースが目立った。



写真5 ハーモニックのPatrick Hershman社長は、フジテレビ・ネットワークとの契約内容を嬉しそうに発表した。

一方、会期の前日に10社ほどが記者会見を行ったが、特に印象に残ったのはハーモニックの会見であった。同社の会場では、Patrick Hershman社長が直々に登壇して「日本のフジテレビ・ネットワークがOTTサービス用に、ハーモニックのクラウド・プレイアウト・ソリューションを導入した」との大々的な発表を行った。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト